

経営比較分析表（令和4年度決算）

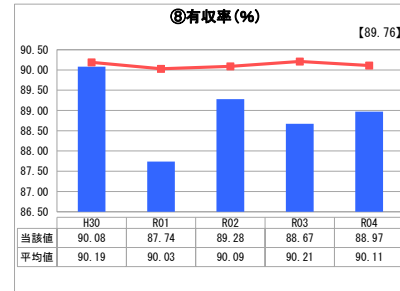
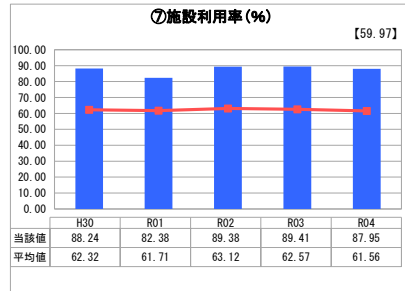
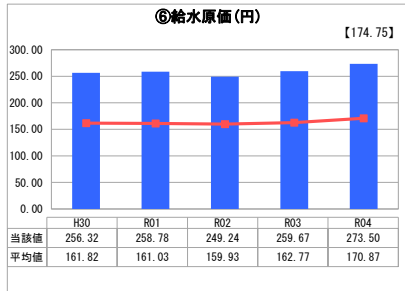
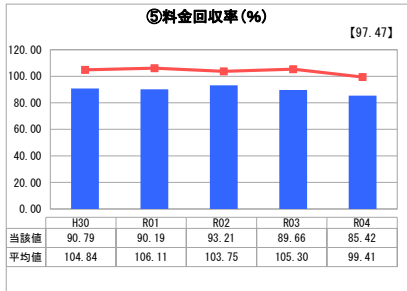
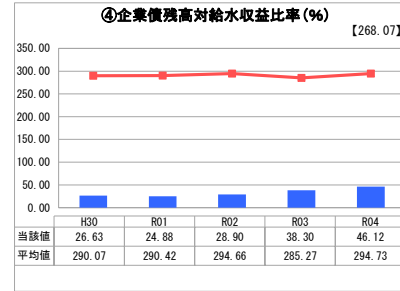
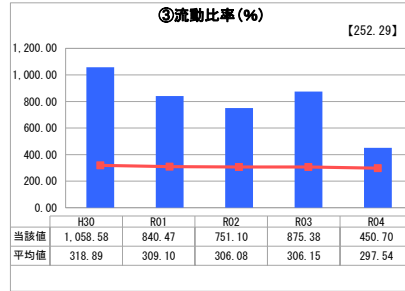
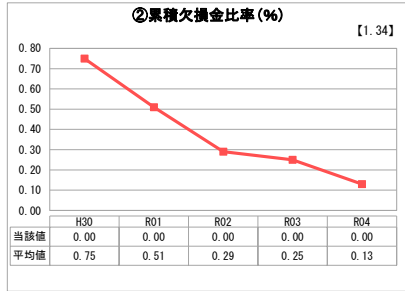
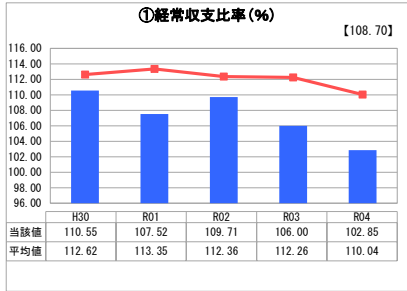
千葉県 山武都市広域水道企業団

業務名	業種名	事業名	類似団区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A2	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり定額料金(円)	
-	91.60	91.35	4,306	

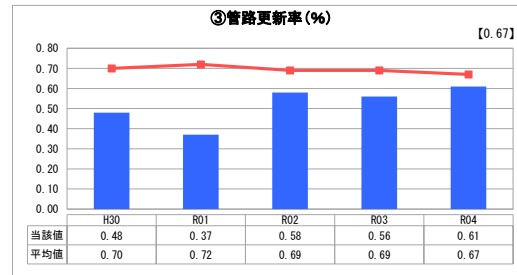
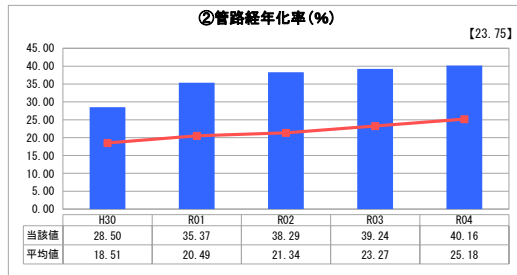
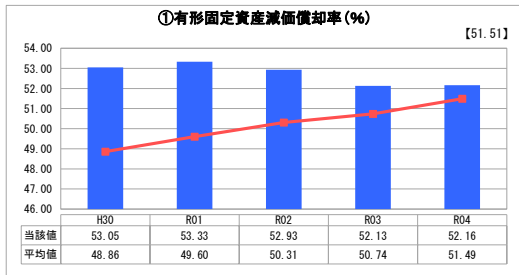
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
-	-	-
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
151,283	299.93	504.39

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は、全国平均、類似団体平均値を下回っているが従来から事業の効率的運営に努めてきた結果、100%を上回っていることから良好といえる。
 ②累積欠損比率は、0%であることから良好といえる。
 ③流動比率は、全国平均、類似団体平均値を上回っており、1年以内の債務に対する支払能力は良好といえる。
 ④企業債残高対給水収益比率は、全国平均、類似団体平均値を大幅に下回っていることから良好といえる。
 ⑤料金回収率は、全国平均、類似団体平均値を下回っており、水道事業費用を給水収益だけでは賅えないため構成市町や千葉県からの高料金対策補助金により収入を確保している。
 ⑥給水原価が全国平均、類似団体平均値を上回っている主な要因は、水源に乏しい地域特性によって水源開発に多額の投資を行ってきた関係で受水費が他の地域より割高となっているためである。
 ⑦施設利用率は、全国平均、類似団体平均値を上回っており効率的に施設が利用されているといえる。
 ⑧有収率は、全国平均、類似団体平均値を下回っているが、その主な要因は、漏水件数の増加等によるものである。そのため、配水管の漏水を早期に発見・修繕しながら計画的に更新することで有収率を向上させる取組を進めている。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は、法定耐用年数に近い水道施設が多く、全国平均、類似団体平均値を上回っている。そのため、延命を主体とした水道施設の改修や、配水管の更新を計画的に実施している。
 ②管路経年率は、創設時に布設した配水管が法定耐用年数を超え、全国平均、類似団体平均値を上回っており、今後、上昇傾向にある。
 ③管路更新率については、全国平均、類似団体平均値を下回っている。法定耐用年数を迎える配水管が増加することから、更新率を上げていく今後も検討が必要である。

全体総括

経営の健全性
 給水収益で経常費用を賅えていないことから料金回収率が低い状況にあるが、山武水道を含む九十九里地域では良質で豊富な水源が無いため遠く利根川に水源を求めていることから、県内の多くの地域での用水供給料金より割高となり水道料金を押し上げる要因となっている。このため、構成市町や千葉県から補助金を受け水道料金を抑制している状況である。
 今後、千葉県が進めている用水供給事業の統合・広域化が実現し、用水供給料金が大幅に引き下げられれば経営の健全化に繋がるとされていることから、その協議状況を注視するとともに末端給水事業体の統合・広域化についても検討していく。

経営の効率性
 施設利用率は高い状態を維持しながら、計画的な配水管の更新により有収率の向上を目指す。

老朽化の状況
 創設時に整備した多くの水道施設が老朽化しているの、計画的な更新を進めている。